



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	福田 充		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 5		
講義室	1210	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢] 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5-J[創造的挑戦力・達成力] コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K[表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-C[他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP7-L[協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M[省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発－10% C1 倫理的思考・社会認識－10% E1 学識と専門技能－20% I1 理解・分析と読解－10% J1 継続的学修基盤 K1 ライティング・コミュニケーション－20% L1 チームワーク－10% M1 統合的・応用的学修－10%		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関与しました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダ		

	ーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第15回）	
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 定着期	
科目概要・キーワード	■科目概要 危機管理学に関する卒業論文を制作するために実施するゼミナールの演習において、第4段階として、各自の研究テーマにもとづいた卒業論文を執筆、作成します。毎回の演習において、各自が執筆した卒業論文の箇所を毎回発表し、議論し、指導します。最終的に、ゼミナール履修者全員が卒業論文を完成させ、それぞれの研究テーマと問題意識、その課題解決の手法と結論について議論し、意識を共有します。 授業形態は（演習）形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード： リスクコミュニケーション、危機管理学、社会調査、統計分析	
授業の趣旨	■副題 卒業論文の執筆・作成と完成 ■授業の目的 卒業論文の執筆・作成を実施し、卒業論文を完成させることを目的とします。 ■授業のポイント 卒業論文の執筆・作成を完遂するために、毎回全員が原稿の発表を行い、全員で議論し、指導します。	
総合到達目標	卒業論文を執筆・作成し、完成させることを目標とする。 ・危機管理学に関する専門分野の理論知と実践知を獲得し利用することができる。 ・危機管理学における自己の社会的責任を知り、自らを高め続ける努力することができる。 ・危機管理学に関して自らの置かれた状況、所属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 ・文章表現、数値データを適切に扱い、情報収集、分析と加工を行い、課題解決につなげることができる。 ・文章と口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に伝達することができる。 ・人間行動に関する考察に取り組み、社会的存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ・集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 ・知識と経験を関連付け学修成果を活用できる状態に高め、新しく複雑な状況に応用して課題解決につなげることができる。	
成績評価方法	■ゼミナール・演習内で毎回発表する卒業論文計画レジュメ（100%）：適用ルーブリック B1・C1・E1・I1・J1・K1・L1・M1 ゼミナール履修生が全員毎回、卒業論文の進展状況、執筆した論文の原稿箇所を発表します。 社会調査を実施するにあたり、使用するアンケート調査票の作成、社会調査の実施、データ分析の実施についても評価します。 （評価の観点） 卒業論文の執筆・作成過程において、執筆した卒業論文の原稿箇所について、毎回ゼミナール履修者が発表を行います。その論文における先行研究の紹介、調査手法の的確さ、グラフ作成やデータの理解の正確さ、論理性、創造性などを評価します。 （フィードバックの方法） 各自の研究発表後に、授業内で評価・議論を行います。	
履修条件	当該ゼミナールの履修を志望したものに対する入室試験を、エントリーシート、面接、成績評価（GPA）により実施し、合格したものが履修できます。	
履修上の注意点	危機管理学におけるリスクコミュニケーションについて社会調査による実証研究を卒業論文において実施する意欲のあるものの履修を望みます。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（1） 卒業論文タイトルと目次・構成 ②授業概要

	危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。ゼミナールでは担当教員のこれまでの実務経験を活かしながら研究指導を行います。こうした社会での実務と研究活動がどのように関連してくるかを説明します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
2	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（2） 卒業論文の問題意識 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
3	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（3） 卒業論文の研究対象部分 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
4	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（4） 卒業論文の先行研究紹介 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
5	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（5） 卒業論文の研究手法 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
6	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（6） 卒業論文の仮説 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文

	を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
7	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（7） 卒業論文のデータ紹介 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
8	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（8） 卒業論文の統計分析手法 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
9	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（9） 卒業論文のグラフ作成 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
10	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（10） 卒業論文の結果と考察 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動を続ける。
11	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（11） 卒業論文の仮説の検証 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1）

		③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動が続ける。
	12	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（12） 卒業論文のモデル図・提言 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動が続ける。
	13	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（13） 卒業論文の注釈 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動が続ける。
	14	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（14） 卒業論文の参考文献・資料 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動が続ける。
	15	①授業テーマ 卒業論文の執筆・作成（15） 卒業論文の完成と提出 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究についての卒業論文を執筆し、作成する。ゼミナール履修者全員が、それまで執筆した箇所を発表し、議論を行う。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） それぞれが自らの研究テーマに則して卒業論文を執筆・作成しまとめる。 ④復習（120分） ゼミナール演習中に受けた指摘、指導をもとに、卒業論文の原稿を加筆修正し、執筆・作成活動が続ける。
関連科目		■演習系科目 「危機管理基礎演習Ⅰ（RMGT 2601）」・「ゼミナールⅠ（RMGT 4601）」・「ゼミナールⅡ（RMGT 4602）」・「ゼミナールⅢ（RMGT 4603）」 ■講義科目 「危機管理学概論Ⅰ（RMGT 1301）」, 「リスクコミュニケーション論（RMGT 1304）」
教科書		福田充編（2012）『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）。 福田充（2010）『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹

	出版)。
参考書・参考URL	福田充 (2022) 『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』 (平凡社新書)。 福田充 (2022) 『政治と暴力～安倍晋三銃撃事件とテロリズム』 (PHP新書)。 福田充 (2010) 『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』 (慶應義塾大学出版会)。 福田充 (2009) 『メディアとテロリズム』 (新潮新書)。その他は講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日・金曜日昼休み時間。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25% : パブリックセキュリティ25% : グローバルセキュリティ25% : 情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70% : 法学30%

